

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 教師の授業力の向上(学校力向上サポート事業(三加茂中連携))

加茂小学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 森長拓哉	委員 校長:真鍋憲人 教務主任:曾我部さち	教頭:石丸秀樹 研修主任:濱本恭代
-----------------	-----------------------------	----------------------

校長

真鍋憲人

【小中連携または中高連携における共通の取組】

自主的・意欲的に取り組む児童を育てるための「めあて」と「ふり返り」の工夫

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度が良い。 ●基礎的・基本的な知識・技能を身につけることが課題である児童が多い。(漢字・計算)	・学年相応の学力を身につけ、活用することができる。	・教員の授業力を向上させ、どの子にも分かりやすい授業づくりをめざす。 ・隙間時間や授業のはじめに小テスト、反復練習。(ICTの活用推進)	・授業力向上のための具体的施策を検討する。 ・発達段階や習熟度に応じて、小テストを定期的に行うことで定着を図る。 ・個別に指導、支援する時間を増やす。(ノートチェック)		

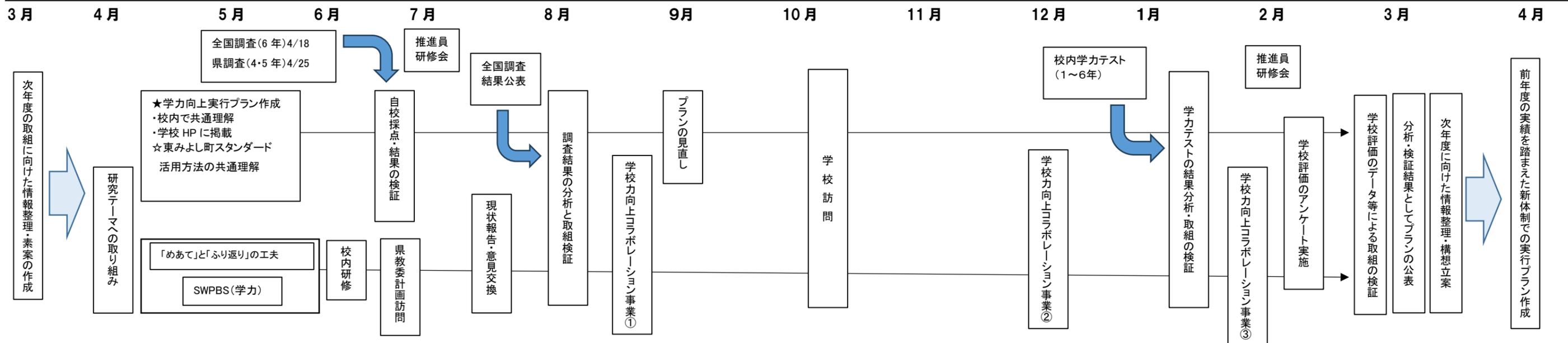
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発表する意欲が高く、友達の前で自分の意見を伝えようとする姿が多く見られる。 ●自分の考えを表現するときに、理由づけをして、最後まで伝えることを苦手としている。 ●自分の考えを文章にすることや、読解力に課題がある。	・他者の考えを聞き、自分の意思を示したり、反応したりすることで、自分の思いや考えをまとめることができる。	・ICTの思考ツールを活用した授業づくりの推進。 ・意見交換や意見交流を充実させられるようにする。(ペア・グループ・全体) ・学習の「ふり返り」の時間をとる	・思考ツールだけでなく、ホワイトボード等の活用も取り入れることで、全体での意見交流を充実させる。 ・ICTの活用により、個々で考える時間を増やす。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習準備を整え、聞くことのルールを意識して、学習に取り組もうとしている。 ●自ら進んで考え、新たな課題を見つけ、解決しようとすることに課題がある。	・自分の考えをもち、他者との交流を通して、学ぶことの楽しさに気づき、協働的に解決しようとする態度を身につける。	・1時間の授業の「めあて」をしっかりとるようになる。 ・認め合える関係性を築き、楽しんで学べる学級づくり。	・めあてをつかめるようにし、それに沿ったふり返りをする。		

令和6年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
○認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

〇〇学校  
「学力向上実行プラン」

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ホワイトボードを使った話し合いやノートを使った振り返りの仕方について、統一したものを作成して取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつぶやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

